# トキと自然の学習館 便り

## ～10月の出来事～

令和２年10月
VOL.36

出来事①

## 幼鳥6羽佐渡へ

今年も別れの季節がやってきました。毎年秋になると、長岡市トキ分散飼育センターで生まれた幼鳥は佐渡トキ保護センターへ移送します。今年は6羽が育ち、10月22日に佐渡へと出発しました。

くちばしの長さを測る様子

血液を採取する様子

半年間成長を見守り続けた飼育員が、移送前に健康状態を確認します。今年の繁殖期は新型コロナウィルスの感染が広がる中で迎えたため、飼育員は感染防止対策で二班に分かれ隔週で世話にあたりました。このような態勢は初めてで、日々の成長が著しいヒナの成長過程や親鳥の様子など、情報共有に大変苦労したそうです。

移送した幼鳥は成鳥になると佐渡の自然へ放鳥されたり、親鳥として繁殖に取り組みます。平成25年から始まった移送は今回で10回目となり、これで43羽の幼鳥が長岡市から巣立ちました。

幼鳥を見送る飼育員

出来事②

## メス受け入れ

幼鳥の移送と同じ日、メス1羽(写真左)も佐渡へ移送されました。このメスは6羽の子どもを育て上げ、このうち4羽が放鳥されるなど野生復帰に貢献してきました。しかし近年は安定した繁殖が難しくなってきたため、佐渡へ帰ることになりました。

23日には新しいお嫁さんとして、おととし中国から提供された楼楼の子で1歳のメス(写真右)がやってきました。

現在日本にいるトキは、平成11年に中国から贈られた友友・洋洋をはじめとする5羽の子孫です。遺伝的多様性に乏しく、病気への抵抗力などが懸念されてきました。今回やってきた楼楼の血を受け継ぐメスから子どもが生まれることが期待されています。